

(別紙4(1))

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0391100062		
法人名	コンフォートライフ 合同会社		
事業所名	グループホーム やかた		
所在地	岩手県釜石市大町三丁目9番16号		
自己評価作成日	平成25年10月25日	評価結果市町村受理日	平成26年3月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;ji_gyosyoCd=0391100062-00&amp;PrefCd=03&amp;Versi_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;ji_gyosyoCd=0391100062-00&amp;PrefCd=03&amp;Versi_onCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1
訪問調査日	平成25年11月13日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

2011年3月11日東日本大震災で当事業所も被害を受けましたが、それでも「釜石に帰って着たい、この地で暮らしたい。」との強い希望に応えられるよう、「ほっと一息、ぬくもりのある“やかた”」を介護理念とし、職員一同支援させて頂いています。  
町の復興と同様、利用者や職員もまだまだ精神的傷の癒えない状態ではありますが、「安心して心地よい生活」が送れるよう、街中という立地条件を活かし、地域行事や各種イベントへの参加、日常の買物や散歩などを通して地域の方々とも交流し、共に励ましあいながら支援できるような関係作りを心がけています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

平成23年4月に開所の予定であったが、震災により一階が浸水し遅れて同年9月に開所となっている。「釜石に帰りたい。」「釜石で生活したい。」と希望している方々に応え、地域住民の協力を得ながら利用者主体の支援が行われている。利用者一人ひとりが、とても明るく、常に話し声・笑い声・歌声にあふれ、生き生きとした日常生活を送っており、利用者が、自身の財布で、買い物できる支援や、排泄についても自立していること等、利用者本位の細やかな支援の成果が窺われる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	経営理念については掲示をしている。また、スタッフ皆で話合い介護理念を作りそれを共有している。	経営理念・介護理念は玄関に掲示している。職員で話し合い、作られた介護理念は、毎日唱和している。3月には見直しを予定している。	具体的に介護目標を検討し、実践・評価することで、より介護理念の浸透が図れることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買物や散髪、外食など商店街の方々との交流は日常的に行っており、地域行事などにも可能な限り出向いている。	毎日、近隣の仮設商店街に出かける利用者も複数おり、すっかり顔見知りとなっている。「釜石よいさ」や、釜石祭りを見に出かけたり、地域でイベントがある時は出かけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方を家族に持つ方々の会での施設見学会の受け入れや講義なども行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年4回開催し利用者や利用者家族、包括や市職員、町内会長や民生委員、会議内容に応じて消防団などにも参加頂いている。利用・取り組み・事故報告状況などを報告し意見を頂きサービス向上に活かせるよう取り組んでいる。	グループホームと併設されている小規模多機能と合同で運営推進会議が行われている。委員からは、震災時の避難路の整備予定等、アドバイスをいただき、避難場所が変更になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	常に市担当者や包括支援センター職員等と連絡を取り合い協力関係を継続できるよう努めている。	市の福祉事務所に、毎日書類を受け取りに行っていることもあり、情報交換が円滑に行われている。また、津波警報が出た時の避難場所として実際に避難もしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員で権利擁護・身体拘束・リスクマネジメント委員会を設置し身体拘束について施設内研修会も行っている。	日中は、玄関に鈴を付け出入りの気付きとし、鍵を掛けないよう取り組んでいる。身体拘束委員会があり、更に「待つ」「まだ」などの不適切な声掛け排除も含め身体拘束ゼロを目指して、マニュアル作成を予定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	今後も、各種研修会等に参加し防止に努めて行きたい。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームやかた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員で権利擁護・身体拘束・リスクマネジメント委員会を設置し権利擁護について施設内研修会を行う予定となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明を行い納得を頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応窓口として事業所管理者の他、包括支援センターにも設けている。 苦情以外でも家族や町内会長、民生委員などの参加がある運営推進会議を通して報告し運営に反映させている。	家族より、「i-Padを持たせたい。」と希望があり、無線LANを付けて欲しいとの要望もあったが、個人情報の流失等の心配もあり現在、検討中である。要望や意見が家族よりあった時は、その都度検討し、対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回職員全体ミーティングを行い意見や提案を聞き入れるようにしている。	勤務時間の変更について職員から提案があり、職員全体ミーティングで検討し、介護の見直しで対応することとなった。居室変更や歩行器の変更など職員の意見や提案があった場合は、職員も含め話し合いを持ち、検討・対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の能力を評価し、向上心ややりがいにつながるように労働条件や職場環境の改善に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内外に問わず、研修や講演へは積極的に参加を進め職員のケア向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	実習生などの受け入れは行っている。また、外部講師の研修がある時には、他同業者の方々に声を掛け、勉強会に参加して頂く事がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の訪問や面談にて本人や関係機関などより聞き込みを行い、可能な限り不安を解消したうえで入所して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の訪問や面談にて家族より聞き込みを行い、共に支援して行けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用前には当施設見学をして頂き、必要であれば他のサービスについても説明をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除・洗濯・調理など出来る限り利用者と共にを行い、より良い関係が築ける様日々検討している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	殆どの家族が遠方にて生活して居る為、連絡を密にししながら、本人と家族の橋渡しとなれるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の知人や友人など家族以外の方との面会も自由にできる状態にし関係が途切れないよう支援している。	利用者の友人の家を訪ねて行ったり、友人が自由に訪ねて来れるよう支援している。また、利用者が懐かしく思っている場所など、馴染みの大観音やどんぐり広場、古里めぐりにも希望に応じて出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同スペースでの座席や各居室配置にも配慮して良好な関係が築けるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人、家族の希望に添えるよう、契約終了時にも相談支援を行い、相談支援の継続も伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用し本人の希望や意向など日常会話から聞き込みを行い把握に努めている。	利用者の方々は活発で、自由に意見や要望を日常的に話されている。また、職員は目配りや、気配りにより、思いを知ることが出来るように努め、会話の少ない利用者にはさり気なく声を掛けていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し本人や家族より聞き込みを行い、前ケアマネージャーからも可能な限りの情報提供を頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	残存機能の維持に努め、個々にあった過ごし方が出来る様に、見守り・声掛けを行い低下を防いでいる。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの希望や意向を踏まえ、各居担を含めた職員でカンファレンスを行い、介護計画に反映している。	定期的な見直しや、状態の変化のある時は随時見直しを行っている。家族が面会に来た時には、必ず会話の機会を設け、希望や意向の確認をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々ケア記録の記入を実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	散歩や買物以外でも外食や美容院など本人の希望に添えるよう努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームやかた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣商店街への外出、外出が困難な方へは出張販売や出張美容室などで対応している。その他、食事や入浴なども時間にとられず本人の状態に応じて対応するよう心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態に応じて適切と思われる医療機関を家族と話し合い決めている。体調不良時は早めに家族と連絡を取り受診するよう支援している。	以前から利用していた訪問診療を継続して利用している方が多い。受診や通院は本人やご家族の希望に応じて対応している。ご家族と連絡をとりながら適切な医療が受けられるよう支援に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日血圧、体温の測定を行い健康管理に努めている。看護職員と常に情報を共有し、心身共に変化の見られたときは適切な受診に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との情報交換を行い安心して療養できるよう努め、退院後の対応なども指示頂けるような関係作りを心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向も十分に配慮しつつ本人らしい終末期を迎えられるよう家族、主治医との連携を密にとりチームで取り組んでいる。	重度化や終末期に向けて、契約時の説明や、方針等を明確にしたものはないが、訪問診療により緊急時の対応も可能な状況となっている。	方針については書面等で明文化し、入居時に説明し、共有することでグループホームの今後の取り組みがスムーズに行えることに期待したい。また、本人の意向も確認しつつ、家族や職員、関係者が連携を図り、適切な看取りの対応の取り組みを望みたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時に備え、看護師による内部研修も行い緊急時の対応の仕方を学んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に消防訓練を行い地域住民との連携を図っている。津波非難場所には近隣町内会の集会場とし地域の方々の協力も頂いている。マニュアルも作成し職員全員が対応できるよう体制を築いている。	夜間の避難訓練も実施した。また、(消防の)分団は、何かあったら駆けつける関係性が出来ている。津波警報がある度に、実際に避難しており、これまでに4、5回の避難が行われ、地域の方々から車椅子を押していただくなど、協力していただいている。スプリンクラーの設置やセコム関係の取り付けが行われている。	浸水が予測される地域でもあり、近隣に災害時の協力を依頼し、協力員の名簿作成等により、これまで以上に確実な協力関係の構築を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人個人のプライバシーは保護し決して自尊心を傷つけたりしないよう言葉使いや態度などに気をつけながら支援している。	入浴介助は同性介助で対応している。また、トイレにゴミ箱を置き、汚れたものを包んで自分で捨てる事が出来るようにしており、自尊心を尊重した介護に努めている。また、日常のケアの中でも、不適切な声掛けなどがあつた時は、ミーティングで話し合いを持っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に寄り添いながら何気ない言葉や態度、話から思いを汲み取り支援できるよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれの生活リズムに合わせてくつろげる環境をつくれるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時など好みの物、普段から愛着を持って着ているものを観察し、本人にも選んでもらえる機会をつくる様支援している。美容師にも来て頂いているが、希望があれば他の美容院への送迎も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いのある方には代替え食を用意したり、おかゆや刻み食、ミキサー食など状態に合わせた食事を提供している。調理や片付けなども行って頂いている。	誕生日には、本人の希望により、好きなメニューを提供している。評価調査の当日にも利用者の方々は、下膳や食器洗いを、賑やかに会話をしながら積極的に行っていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は毎回記録し職員が把握している。 お茶やコーヒーなども希望のものをその都度確認し提供できている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人に合わせて声がけや介助を行っている。 歯科医師会の口腔ケアのボランティアより指導も受けケア向上に努めている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームやかた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人に合わせてチェック表を作成し時間や行動の変化で対応したり、本人の精神的な不安からリハビリパンツを使用している方には、声かけなどで布パンツとパットへ変更するなどひとつひとつ時間をかけて支援している。	排泄チェック表を使用し尿意のない利用者にも時間や動きを見てトイレに誘導したり、紙パンツ、パッドなどを本人に合わせて検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの取れた食事が提供できるよう献立を作成している。 水分補給の促しや散歩や運動の促しになどの予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決まっているが、希望時にも出来るかぎり対応している。	入浴は、週3回を基本にしているが希望があれば毎日の入浴も可能である。午後の時間帯に合わせて順番に入浴されている。希望によっては複数で楽しまれる場合もある。1階にある小規模多機能ホームの風呂を利用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣や体調も踏まえながら、日中の活動を促し良眠支援を心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書を個人ファイルに綴りいつでも確認できる状態にし、看護師の指示のもと支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や買物、夜間の晩酌など以前からの生活習慣でも気分転換が行えるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調を考慮した上で、希望があれば近隣への買物や散歩などの支援を行っている。 地域行事やイベントを通して地域の方々との関わりを深めている。	一人ひとりの希望にあわせて周辺を散歩したり、仮設の商店に出かけて楽しんでいる。 また、利用者の希望で釜石大観音参拝や秋祭り、釜石よいさ、桜見物、紅葉狩り等、戸外に出かける支援に努めている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームやかた

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所金庫にて現金の管理はしているが、出来る方には買物の際財布をそのまま預けお会計もして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも電話や手紙のやり取りが出来るような支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花などの植物や置物を飾り落ち着ける空間作りを心がけているが、もっと季節ごとの飾りつけにも工夫して行きたい。	廊下は広く、片側には収納庫があり備品を収納している。その上に利用者が購入した花の鉢植えが飾られ、水やりは、利用者が行っている。ホールの席は、気の合う利用者同士が、楽しく過ごせるよう配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者それぞれの性格を理解したうえで空間作りに気を配っている。ホールスペースのソファの他、廊下にもベンチを設置し、気の合う方々がくつろげる場所も作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や寝具類など出来る限り自宅で使用していたものを準備して頂き本人が居心地良く過ごせるように配慮している。	電子ピアノ・箏篋・冷蔵庫・椅子・テレビ・仏壇・テーブル等本人の希望により置いており、寛げる居室となっている。ゆっくりと居室でテレビを見たり、電子ピアノを弾いたり、利用者個々に過ごす時間も大切にしていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内の整理は本人と行い整頓を心がけ、各居室の配置や福祉用具の使用も行い自立支援に努めている。		